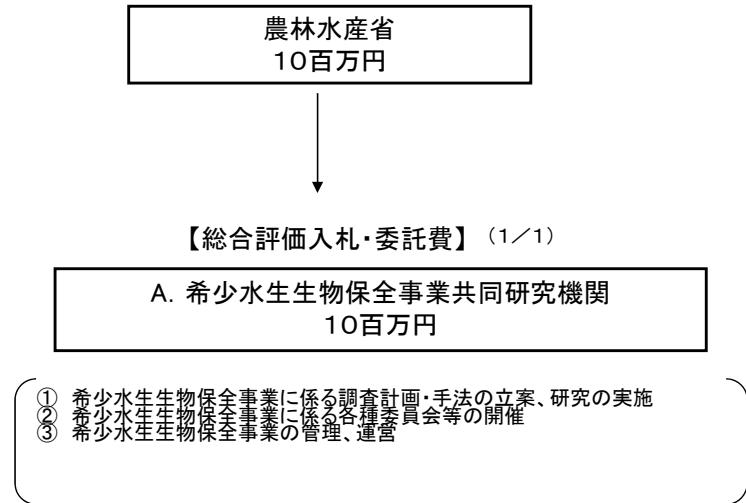


平成24年行政事業レビュー(農林水産省)							
事業名	漁場環境・生物多様性保全総合対策事業のうち希少水生生物保全事業			担当部局	水産庁	作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成20~24年度			担当課室	増殖推進部漁場資源課	漁場資源課長 長谷 成人	
会計区分	一般会計			施策名	⑯水産資源の回復		
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	水産基本計画(平成19年3月20日閣議決定) 農林水産省生物多様性戦略(平成19年7月6日決定)		
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3程度以内)	水産資源の持続可能な利用を確保するためには、生物多様性の維持・保全を図ることが重要であることから、漁業対象種以外の希少水生生物についても、その保全対策を推進するとともに、希少種の保全・回復策を通じて得られた技術を、漁業対象種を含む全ての水産資源の維持・保全に活用する。						
事業概要(5程度以内。別添可)	希少水生生物の保全を図るために、専門家で組織する希少水生生物保全事業検討委員会において希少水生生物の現状把握や調査研究内容の検討等を行うとともに、希少水生生物の資源状況調査データの総合的分析及び保全手法の開発等を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	当初予算	11	11	10	8	-	
	補正予算	-	-	-	-		
	繰越し等	-	-	-	-		
	計	11	11	10	8	-	
	執行額	11	11	10			
執行率(%)	100	100	100				
成果目標及び成果実績(アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)
	①主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量の確保(平成34年1,739トン) ※下段()書きは年度目標値、上段は年度実績値		成果実績① 千トン	1,826 (1,820)	1,788 (1,829)	1,665 (1,837)	1,837 (23)
	②水産庁版レッドデータブックより、淡水魚類(絶滅危惧種15種・危急種13種)を中心としたながら保全・回復対策の開発に着手した種類数		達成度① %	99.4%	97.3%	90.6%	
			成果実績② 課題数	9	9	9	28
			達成度② %	32.1%	32.1%	32.1	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	事業実施対象魚種類数		活動実績 (当初見込み)	8	8	8	—
				(8)	(8)	(8)	(8)
単位当たりコスト	1,189,000(円/種)		算出根拠	予算額/事業実施対象魚種類数=9,515,000円/8種類 (参考:過去の単位当たりコスト) 1,363,250円/種(平成22年度) 1,363,250円/種(平成21年度)			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	検討会開催費	0.3	-				
	希少水生生物の資源状況等調査費	3.5	-				
	希少水生生物の保全手法の開発費	3.7	-				
	計	8	-				

事業所管部局による点検					
	評価	項目	評価に関する説明		
目的状況・予算の 使途・費目・ 活動実績・成果実績	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	国民からのニーズはあるとは言い切れないが、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存等に関する法律」で保護・増殖について、関係省庁で連携して取り組むこととされている種を対象に調査を実施しており、取り組むべき事業としての優先度は高いと言える。		
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。			
	一	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。			
点検結果	×	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	希少な水生生物に対する専門的な知識を有している者が少ない。各研究対象生物ごとに入れを行なうことも検討したが、それでは却て事務の煩雑化が発生することから、全国単位の共同研究機関とした場合には、一社応札にならざるを得ない状況である。		
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。			
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。			
	一	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			
【課題】 希少水生生物の種の保存、自然環境下で存続させるためのデータの蓄積・分析は重要なことではあるものの、これら希少水生生物が国内で生息が可能な地域は限定されており、全国的な普及には時間を要してしまうことである。					
【有効性・効率性】 各希少水生生物の調査に要する費用は、1ページ目の「単位あたりコスト」にあるとおり、1種当たり118万円である。参考としている過去2年間の単位あたりコストも減少させて事業を実施しているところであり、これ以上の効率化は研究対象生物の種類をさせることになるため不可能である。					
【必要性】 平成19年7月6日に決定(平成24年2月2日改定)された「農林水産省生物多様性戦略」の2-1(4)において、「希少な野生水生生物については、その保護を通して健全な生態系の維持を図る観点から、科学的知見の集積・充実を図り、保全・管理手法の開発を行う」としており、生物多様性の必要性が求められているところである。					
予算監視・効率化チームの所見					
（ 2 4 現 終 年 度 通 ） 限 り で		本事業は、24年度で終了の事業であるが、23年度においては、資金の流れのAについて、2年連続で1者応札となっている。また、希少水生生物の保全手法の開発について、23年度の目標28種に対して、9種と実績が年度目標値を下回っている。以上のことから「支出先の選定における競争性・透明性の一層の向上」、「成果目標達成のために事業内容の見直し」を行うべきである。			
		上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
平成24年度限りで終了					
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）					
関連する過去のレビュー・シートの事業番号					
平成22年行政事業レビュー	478	平成23年行政事業レビュー	0341		

※平成23年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

A.希少水生生物保全事業共同研究機関					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
賃金	希少水生生物の保全に関する実験調査補助賃金(10人・月)	1.5			
消耗品費	希少水生生物の保全に関する生態調査等のための試薬品等の消耗品	6			
旅費	希少水生生物の調査、報告会等にかかる旅費(7人・回)	1.5			
その他	光熱水料、電話料郵送料、振込手数料等	0.6			
計		10	計		0
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入 札 者 数	落 札 率
1	希少水生生物保全事業共同研究機関	希少水生生物保全事業に係る調査計画・手法の立案、研究の実施等	10	1	100
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入 札 者 数	落 札 率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入 札 者 数	落 札 率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入 札 者 数	落 札 率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					